JA長野厚生連

Vol. 109
2026.Oct

厚生連ながの

KOUSEIREN NAGANO

Autumn



若月賞授賞式

第65回農村医学夏季大学講座 02
当院のやさし医、たのし医、くわし医、お医者さん 04
こちらナースステーション 06
介護・福祉のひろば 07
旬菜堂 08
健康相談Q&A 09
佐久総合病院 看護専門学校だより 10
トピックス 11

JA長野厚生連

第65回 農村医学夏季大学講座 開催









2026（令和8）年7月10日（金）・11日（土）の2日間、佐久総合病院農村保健教育ホールにて「第65回農村医学夏季大学講座」を開催しました。テーマは「これからの持続可能な地域づくり～医療と農業の視点から～」。現地受講者285人、Web受講者125人の計410人が参加しました。

第34回若月賞は垣添忠生（かきぞえただお）氏、荒川朋子（あらかわともこ）氏が受賞

開講式に続き、第34回若月賞授賞式が執り行われ、国立がんセンター名誉総長・公益財団法人日本対がん協会会長の垣添忠生氏と、学校法人アジア学院常務理事の荒川朋子氏が受賞されました。垣添氏は「がんと向き合う」と題した講演で、自身の経験をもとに、がんに対する偏見をなくすことの重要性を訴えられました。荒川氏は開発途上国からの研修生が共同生活の中で農業を学び、「土からの平和」というアジア学院の理念に結びついていく過程を紹介されました。

講演①「医食同源の再定義――『身体』と『地域』をつなぐもの」

京都大学人文科学研究所の藤原（ふじはら）辰史（たつし）教授は、歴史学の視点から食・農・生命・環境を横断的に考察。私たちの身体が地球規模の物質循環の一部であり、「身体そのものが『環境』である」と述べ、環境問題が身体の内側を貫く問題であることを強調しました。水俣病、枯葉剤、ガザ地区の食糧攻撃などを例に挙げ、食が公害や戦争の手段として利用されてきた歴史を指摘。農薬と毒ガス、トラクターと戦車、化学肥料と火薬が同じ技術基盤から生まれているという事実を提示し、人を生かす技術と傷つける技術の結びつきに言及しました。さらに、核兵器による放射性物質の食物連鎖を通じた健康被害にも触れ、効率や支配を優先する国家の力が、地域の生態系と人々の健康を破壊してきた歴史を忘れてはならないと訴えました。質疑応答では、食糧危機が懸念される今後を見据え、部分的な自給自足や地域内での食の循環など、小さくても主体的な営みが地域を活性化させ、命を守る道筋になる可能性が示唆されました。



感動を呼ぶ伝統の農村演劇

佐久総合病院では、終戦直後から出張診療班による農村演劇が上演された歴史があり、演劇を大切にする文化と伝統があります。1日目の

最後に、佐久総合病院職員らによる「にっこり一座」が寸劇『福島とともに―3・11より15年―』を上演しました。震災避難者が故郷に戻れない現実と向き合いながら、避難先の地域で新たな歩みを進めようとする姿を描き、人と人とのつながりや地域とともに生きることの意味を深く考えさせる舞台となりました。

講演②「地域衰退と持続可能な地域」

埼玉大学学術院の宮崎雅人（みやざきまさと）教授は、地域衰退の原因が人口減少だけではないと指摘。地域経済の成長は、地域外へ製品やサービスを提供して所得を得る「基盤産業」が重要とする「移出ベース理論」を提示しました。衰退に直面する地域では、基盤産業が縮小した後に新たな産業への転換が進まない「産業の交代」の停滞が、根本的な原因であると解説。観光振興や先端産業育成などの地方創生策についても、規模や話題性だけを追い求めるのではなく、慎重な検討が必要であると述べました。また、地方経済が公共事業主導から「社会保障給付」が支える構造へ変化している現状を説明し、人口減少によって医療や教育などの公共サービスが維持できなくなる状態を地域衰退の「臨界点」と定義。医療を、地域を根底から支える「社会的共通資本」と位置づけ、国が公的支出を含めて支援する体制を整備すべきだと提言しました。質疑応答では、「地域への愛情」が持続可能な地域づくりの鍵であるとの意見が出され、住民・行政・医療・教育・産業が連携し、地域を支える重要性が再確認されました。



シンポジウム「これからの持続可能な地域づくり ～医療と農業の視点から～」

講座の最終セッションでは、宮崎雅人氏、荒川朋子氏、百瀬清昭（ももせきよあき）氏（鶴岡市立農業経営者育成学校「SEADS」校長）、由井和也（ゆいかずや）氏（佐久総合病院小海分院院長）がパネリストとして登壇し、佐久総合病院院長の鄭真徳（ていまさのり）氏が司会を務めました。

百瀬氏は農業の立場から、「新規就農者を一人前の経営者に育てるには5年、10年かかる。技術を教えるだけでは足りない。定着して生活できるようになるまで、責任を持って伴走することが私たちの役割」と述べ、「よろず相談所」の取り組みを紹介。「農業は本当に楽しい仕事だからこそ、仲間づくりとネットワークが成功への力になる」と語られました。

由井氏は医療の立場から、人口減少が進む中山間地域の医療を取り巻く環境や人材不足の現状を示し、「医療機関には、医療を提供する役割以上の価値がある」と述べました。さらに若月俊一（わかつきとしかず）先生の「農民個人の医療から、農村社会の医療に移らねばならぬ」という言葉を引用し、「農村の病院として、地域社会そのものの発展と結びついた医療をめざしていきたい」と締めくくりました。

その後の討論では、宮崎氏、荒川氏も加わり、「地域を前に進めるには、そこに暮らす一人ひとりが主体となること」や「アイデンティティや帰属意識の強さが、地域への愛着や幸せにつながる」といった意見が交わされました。会場からも質問が寄せられ、医療と農業がともに地域を支える柱であることを再確認する機会となりました。

「誰かに任せるのではなく、一人ひとりが主体として関わっていくことこそが、これからの持続可能な地域づくりの原動力になる」――そんな思いを参加者全員で共有し、シンポジウムは幕を閉じました。各分野の第一線で活躍する講師陣による講演とシンポジウムを通じ、農村医学の原点や社会的処方に触れる大変有意義な講座となりました。

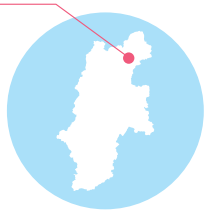
本所職員が医師へインタビュー

当院のやさし医、たのし医、くわし医、お医者さん

今回は、北信総合病院の
長田亮介先生に
お話を伺いました。



北信総合病院
副院長、
産婦人科部長兼小児・
周産期センター長、
医療安全管理室長



長田 亮介（おさだ りょうすけ）先生

略歴

- 1995(平成7)年5月
  信州大学医学部附属病院産婦人科医員
- 1997(平成9)年7月
  北信総合病院産婦人科
- 2000(平成12)年7月
  昭和伊南総合病院産婦人科
- 2005(平成17)年7月
  信州大学医学部附属病院産科婦人科助教
- 2010(平成22)年4月
  北信総合病院産婦人科医長
- 2013(平成25)年11月
  同　小児・周産期センター長兼
  産婦人科医長
- 2014(平成26)年4月
  同　産婦人科部長兼
  小児・周産期センター長
- 2023(令和5)年4月
  同　診療部長兼医療安全管理室長兼
  産婦人科部長兼小児・周産期センター長
- 2025(令和7)年4月
  同　副院長兼医療安全管理室長兼
  産婦人科部長兼小児・周産期センター長

【資格】
- 日本産婦人科学会　専門医・指導医
- 母体保護法指定医

Q1 出身地はどこですか？

A 長野県長野市の西方の山間地出身です。父が長野県の共済連に勤務しており、父から厚生連病院の話をよく聞かされていました。篠ノ井総合病院のご飯が美味しいと言っていたのを覚えています。

生まれ育った地域は、私が子どものころから既に少子化の波が来ており、第2次ベビーブームもなく、私の出身小学校、中学校はすでに廃校になってしまいました。北信総合病院のあるこの地域は少子高齢化の最前線であると感じています。

Q2 医師をめざしたきっかけを教えてください

A 高校生のころ当時はバブルの時代で、社会も右肩あがりでした。将来にあまりビジョンを描けないでいましたが、医学部は全く考えておらず、他の学部を受験しました。高校の成績が余りに悪く、当然の如く浪人しました。予備校に高校の同級が多数いたのですが、意外に医学部志望が多く、彼らの顔をみると自分も医学部にいってもいいのかなと思ってしまったことと、そのころ、母がくも膜下出血で倒れるといったこともあって、医師という仕事に興味を持ちました。

産婦人科医をめざしたきっかけは、お産から婦人科手術、がん患者さんの対応等、幅広い知識を深めることができると感じたからです。産婦人科医の魅力はさまざまありますが、赤ちゃんの誕生に立ち会えるお産は毎回非常に嬉しい気持ちになり、産婦人科医の一番の魅力であると感じております。



▲小児・周産期センターのスタッフ

Q3 患者さんや普段の業務に際して心がけていることはありますか

A 患者さんと信頼関係を築くということです。あなたのことを心配しています、気にかけていますと言うメッセージを出すことや、わかりやすい説明を行うことが重要なことであると思います。電子カルテがあって、外来や医局でも入院患者さんの状況はある程度把握できてしまいます。しかし、気になる点があれば患者さんの顔を見に行く、直接診察するといったことは大切であると思っております。

少子化でお産は減っていますが、最近は、妊婦健診で精神的な問題を抱えている方や、パートナーや家族と良好な関係を築けていない方、経済的な問題を抱えている方などが、以前より多いように感じます。一人ひとりの状況に寄り添った対応ができるよう、小児科や精神科の先生、地域の保健師さんとも連携しながら対応に努めています。



Q4 北信総合病院の良いところは

A 和気藹々としていることです。また、スタッフの協力が得やすく働きやすい点です。

北信総合病院にきて17年目になりますが、駆け出しのころ、丁度長野オリンピック開催でこの地域が盛り上がっていたころの3年間も北信総合病院に在籍していました。私が駆け出しだったころ、一緒に働いた病棟スタッフや職員の方々が多く勤めておられることも仕事をやりやすいと感じている理由です。親子2代お産に関わらせていただくこともあり、産科医冥利に尽きます。

Q5 趣味（気分転換の方法）、休日の過ごし方、座右の銘など

A ランニング、近くの里山や実家の山歩きです。また、冬はスキーもやります。子どものころから一番続いている趣味はキノコ採りです。小学校のころ、先生や同級生と学校の裏山へ行き、よくキノコを採っていました。最近はクマの出没があって、山へいくことに躊躇することがあります。山歩きをしたり、タケノコやキノコを採ったりすることを楽しみにしている人は多く、クマ問題は切実であると感じております。行政でしっかり対策をとって欲しいと思います。

「To Err is Human／人はだれでも間違える」という言葉は医療の世界で有名ですが、論語に「子曰、過而不改、是謂過矣」という一説があります。失敗を自覚しながらも改めようとしないことこそが、本当の過ちであるということです。

間違いはない方がいいのですが、間違えたときにどう対応するかで、その人や組織の真価が問われるのではないかと考えます。何かしら問題に遭遇した場合には、この言葉を思い出して考えるようにしています。



地域の方へ一言お願いします

病院は病気を治す場所でありますが、医療の最終的な目的は、皆が幸せに暮らせる地域社会をつくることであると考えています。病院と地域はお互いに頼り頼られる関係です。こういった認識を病院職員も地域の方々も持っていただければよい医療を提供できると思います。北信総合病院へご意見等ございましたら、ぜひたくさんいただければと思います。

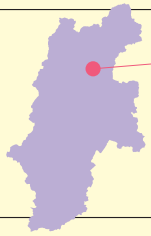


インタビュアーの一言

普段のお仕事のお話から、趣味や座右の銘のお話まで、たくさんのお話をいただきました。どのお話も非常に明るく楽しくお話いただき、先生の人柄に触れることができた時間でした。また、日頃から患者さんのことを思いお仕事をされていることが良く伝わり、非常に素敵でした。お忙しいなかありがとうございました。

こちらナース NURSE STATION ステーション

多職種との協働で患者さんの全人的な健康を支える「診療看護師」



長野松代総合病院
診療看護師
髙橋（たかはし） 幸大（ゆきひろ）



診療看護師（Nurse Practitioner：NP）は2026（令和8）年4月時点で日本に1、118人誕生しており、徐々に人数が増えてきました。NPの活躍を耳にする機会が増えてきた一方、組織によって役割や働き方が異なる場合が多く、「どんな仕事をしているのだろう？」と思われる方もいらっしゃることと思います。今回は、当院におけるNPの働きについてご紹介します。



▲医師と病棟回診を行う髙橋診療看護師（写真右）

当院には、2026（令和8）年時点で2人のNPが在籍しています。それぞれ総合診療科と整形外科に出向し、医師をはじめ多職種と協働しながら診療の支援を行なっています。当院を受診する患者さんの多くは高齢で、複数の疾患を持っています。さらにはさまざまな社会的背景があることから、退院支援や退院後の療養に支障を来す方も少なくありません。総合診療科ではそのような患者さんに対して、入院中だけでなく、退院後の外来あるいは訪問診療といった在宅療養まで一貫して介入します。また、救急・集中治療といった急性期から終末期まで、継続的かつ個別性の高い医療・看護（プライマリ・ケア）を提供しています。整形外科では主に入院患者さんの療養を支援していますが、時には手術にも立ち会い、疾患や治療の理解を深めています。これにより、外来や手術などで多忙な医師と効率的に協働しながら、手術前から手術後の合併症予防やもともと持っている疾患のマネジメントに取り組んでいます。

NPの存在は「医師の代わり」ではなく、「医師の価値を最大化し、患者さんの全人的な健康を支える、自律した看護実践家である」と私は考えています。今後も看護の視点を土台として医学的知識・技術を深め、患者さんやご家族はもちろん、組織や地域全体に貢献できる存在となれるように頑張ります。



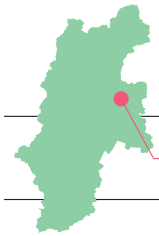
副看護部長・HCU病棟師長
清水（しみず） 宏昭（ひろあき）

紹介者から

髙橋さんは診療看護師として、看護実践だけでなく医師と連携しながら患者さんの診療にも関わり、幅広い知識と経験を活かして患者さんのケアに力を発揮しています。総合診療科から整形外科へ配属が変わりましたが、新しい環境にも柔軟に対応し、専門的な視点で患者さんを支えています。気兼ねなく話しかけることができ、困ったときには気軽に相談できる存在として、スタッフからも頼りにされています。また、医師からの信頼も厚く、多職種との連携においても重要な役割を担っています。常に向上心を持ち、積極的に学ぶ姿勢があり、得た知識や経験を周囲と共有しながら、病棟全体の看護・医療の質向上にも貢献しています。

住民・関係機関とともにつくる病院をめざして

～医療ソーシャルワーカーの取り組みから～





浅間南麓こもろ医療センター　医療ソーシャルワーカー

当院医療ソーシャルワーカー（以下医療ＳＷ）が力を入れている、２つの取り組みをご紹介いたします。

一つは病院ボランティアによる活動です。ボランティアの会は、１９９６（平成８）年に発足、医療ＳＷが事務局をつとめています。活動の中心は病院玄関での付き添いサポートです。車椅子を利用されている方などが、スムーズに院内に出入りできるよう、介助しています。患者さんからは感謝の声が聞かれており、当院にとってなくてはならない存在になっています。また、ボランティアの方の目線で活動中に気づいたこと（例えば、「玄関が雨で滑りやすくなっているよ」など）を教えてくださるので、患者さんにとってより利用しやすい病院づくりにも貢献いただいております。

今後も事務局として、ボランティアの方が活動しやすいようなサポートや、新規会員の発掘にも取り組んでいきたいと思います。

二つめは、がんサロン「たんぽぽ」の取り組みです。これは利用者同士の交流や情報交換などによる、孤独感の軽減や、自らの体験が他の方の支援につながることを実感できる場づくりを目的としています。２０１６（平成28）年に始まり、数人の当事者の方とともに、医療ＳＷ、看護師中心に活動しています。今年度は、院内スタッフを講師とした、栄養についてやアドバンス・ケア・プランニングについての学習会、地域のボランティア団体の方を招いたハンドマッサージの体験などを行いました。

筆者自身がまだ当院に就職したての頃は、がんサロンに参加する際に、参加者とどのように接したらいいのか、戸惑うこともありました。がんサロンでの医療ＳＷとしての立ち位置に迷っていた私に、むしろ参加者の方のほうから心を開いていただき、励ましや労わりの言葉をかけていただきました。

最近は、「がんがあってもなくてもその人はその人。でも、がんというものを身をもって経験されたからこそ、生まれる思いや言葉はあるのではないか」と感じています。そんな参加者の思いや言葉を共有したり、しみじみと味わったりできる場として、今後も続けていきたいと思います。

他にも、小諸市や小諸市地域包括支援センターとともに連携を強化している、「身寄りがなくても安心して暮らせる地域づくり」のための取り組みなど、実際の業務のなかで、実績を積み上げている取り組みもあります。

地域住民や関係機関の方に、「こもろ医療センターがあってよかった」と思っていただけるように、今後も医療ＳＷとして求められる役割を果たしていきたいと思います。



◀病院ボランティアの活動の様子

JA長野厚生連は、国消国産に積極的に取り組んでいます。

旬菜堂

Autumn

今回の主たる食材　きのこ

きのこは栽培技術の進歩により、一年を通して安定した価格で楽しむことのできる食材です。特に秋から冬にかけて風味が良いといわれています。

長野県はきのこの生産が盛んであり、ぶなしめじ・えのきだけ・なめこは全国有数の生産量を誇っています。

食材の栄養価と特徴

- きのこは野菜ではなく菌類に分類されます。私たちが普段食べている部分は「子実体」とよばれ、植物でいうと「花」に当たります。
- 多くのきのこは100g当たり20kcal前後と低カロリーで、食物繊維が豊富なことが特徴です。噛み応えがあり、よく噛んで食べることで満腹感も得られやすくなります。
- さらに、きのこのなかでもまいたけはカルシウムの吸収を助け、骨や歯の健康を保つビタミンDが豊富なことが知られています。

きのこの栄養価（生、100g当たり）

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	食物繊維総量	ビタミンD
まいたけ	15kcal	2.0g	0.5g	4.4g	3.5g	4.9μg
ぶなしめじ	17kcal	2.7g	0.5g	4.8g	3.0g	0.5μg



レシピ　焼ききのこのカレーナムル

きのこはメインの食材になりにくい脇役的存在ですが、煮物・炒め物・和え物など、さまざまな料理に活用できる食材です。鹿教湯病院では人間ドックの後にお食事を提供しています。今回はメニューの一部であるきのこのレシピを紹介します。



1人分の栄養素

エネルギー：61kcal
たんぱく質：1.8g
脂質：5.0g
炭水化物：4.6g
食物繊維：2.6g
ビタミンD：1.6μg
食塩相当量：1.3g

材料のきのこは長野県産を使用しています。



材料（2人分）

- まいたけ 60g
- しめじ 60g
- ピーマン 30g
- 白いりごま 2g
- A
  - ゴマ油 8g
  - コンソメ 3g
  - 塩 1g
  - カレー粉 0.5g
  - 豆板醤 2g

作り方

1. まいたけ、しめじは石づきを取り、小房に分けておく。ピーマンは種を取り、縦に千切りにしておく。
2. Aの調味料をボウルに入れて混ぜておく。
3. フライパンでしめじ、まいたけ、ピーマンを中火で焼き、焼き色をつけて火を止める。
4. 3にAの調味料を入れて和える。器に盛り付け、いりごまをふりかけて完成。

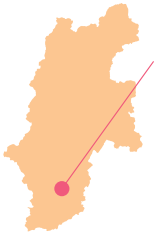
料理のPOINT!

きのこ類は水洗いをすると風味がおち、栄養素も流れてしまいます。汚れはキッチンペーパーなどで拭いて使用しましょう。すぐに使用しない場合は、カットし保存袋に入れて冷凍しましょう。使いたいときにすぐに使うことができるので便利です。

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
鹿教湯病院
栄養科
管理栄養士
掛川（かけがわ）由貴（ゆき）



健康相談 Q&A



下伊那厚生病院
健康管理課　保健師
小椋（おぐら）　麻美（あさみ）



健診結果、届いたままになっていませんか？

～1年に1回のチェックを健康作りに活かそう～



みなさんは、年に1回健康診断を受けていますか？ 健診を受ける目的は、ご自身の健康状態を把握し、生活習慣病などの病気を早期発見・予防することです。また「人間ドック」は、基本的な健診項目に加えて胃カメラや腹部超音波検査なども含まれており、がんや重篤な疾患の早期発見にもつながります。しかし、健診は「ただ受けるだけ」では意味がありません。大切なのは、届いた健診結果を確認し、これからの健康維持・増進に活用することです。ぜひ、お手元のご自身の健診結果をもう一度見てみましょう。

Q 健診結果の「基準範囲内」なら安心しても大丈夫ですか？

「基準範囲」は、健康な人たちを集めて検査したときに、95%の人が含まれる範囲です。正常範囲内であればひと安心と思いがちですが、注目していただきたいのは、「年々数値が上がっている項目はないか？」ということです。数値の変化（経年変化）に早めに気づいて生活習慣を見直すことで、数年後に異常値になるのを未然に防ぐことができます。



Q 健診結果で「異常なし」であれば、病気の心配はありませんか？

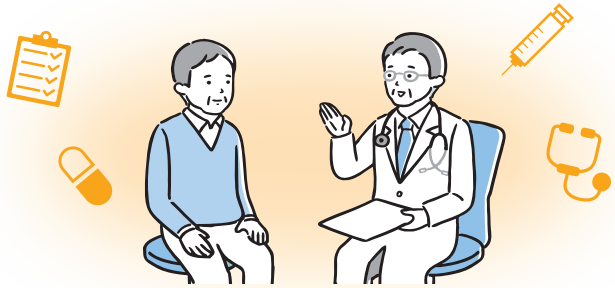
健診や人間ドックですべての病気がわかるわけではなく、限界もあります。「問題なし」と判定されていても、気になる症状や体の不調がある場合は、次回の健診を待たずに早めに医療機関を受診してください。

Q 「要再検査」「要精密検査」と書いてありました。症状がなくても受診すべきですか？

はい、自覚症状がなくても放置せず必ず医療機関を受診してください。受診の際は、健診結果と精密検査依頼書もあれば、持参するようにしましょう。

Q なぜ毎年定期的に健診を受けたり、過去のデータを保管したりする必要があるのですか？

肥満・高血圧・脂質代謝異常・糖尿病などは、静かに進行して動脈硬化を引き起こし、心臓や脳の疾患リスクを高めます。毎年健診を受けて過去のデータと比較することで、見過ごされがちな身体の変化に気づき、病気の予防や早期治療につなげることができます。



佐久総合病院
看護専門学校だより



佐久総合病院看護専門学校のご紹介

今回は本校の特色や学習環境についてご紹介します。ぜひ、ともに学びませんか！


▲オープンキャンパス　実習室体験

本校の特色

1. 長野県内厚生連病院への完全就職
2. JA長野厚生連奨学金制度で在学中の経済的負担軽減
3. 佐久病院グループ施設を中心に、充実した環境で実習が可能
4. 寮や給食で学生生活を完全サポート
5. 全国平均を上回る高い国家試験の合格率を維持（令和7年度の合格率100%）


▲ユニフォームの試着

学習環境に関する取り組み

❶ 独自のカリキュラム

数年前からカリキュラム（教育計画・課程）が変わり、さらに充実した学習環境が整いました。このカリキュラムでは、地域の人々の暮らしに密着した看護を目指すことを目的として、縦割りの教育から人の一生を考えたうえで連続的・継続的な看護実践に結び付けられる学習内容としました。また、どの科目も自主性とコミュニケーション能力向上に繋がる工夫をしています。

❷ 一歩進んだ看護教育に関する通信技術活用

パソコン等を用いて電子教科書使用や学習成果の可視化、教員との対話等通信技術を教育に活用し、質の向上や教員学生間のコミュニケーションツールとして利用しています。

❸ きめ細やかな教育実践と万全なサポート体制の構築

教員が少数の学生に対してきめ細やかな指導・教育体制に加え、学年を越えた学生間で仲間を支え合う体制を確立し、自主性と協調性を育んでいきます。

学習面だけでなく、生活面での相談など、困ったときにいつでも相談しやすい環境を整えています。


◀保育器コーナー


◀エトワールマンション見学（全学生対象）


◀佐久市長来校


◀学生相談


◀あゆみ寮見学（女子限定）


◀ミニ給食試食

2027（令和9）年度 入学試験の概要

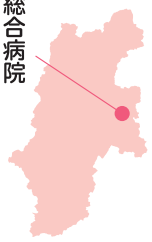
2026（令和8）年 11月26日（木）～ 12月11日（金）（必着）

詳しくは ホームページを ご覧ください。

01

「古くて新しい農村医学」
～現代における農村医学の課題を改めて考える～
第82回 長野県農村医学会学術総会を開催

佐久総合病院



7月4日（土）、佐久平交流センターで第82回長野県農村医学会学術総会が開催され、県内各地から265人が参加しました。

一般演題は61題にのぼり、日頃の診療や地域医療への取り組みの成果が発表されました。

総会テーマに沿って行われたシンポジウムでは、学会長の渡辺仁統括院長をはじめ、川村雄次氏（NHKコンテンツ制作局第1制作センター チーフ・ディレクター）、藤井博之氏（佐久総合病院小海分院・医療法人財団健和会 非常勤医師）、佐藤泰吾氏（諏訪中央病院院長）にご登壇いただき、都市と農村、医療と地域社会など多様な視点から活発な議論が交わされました。組織の枠を超えた「地域づくり」の重要性が改めて共有され、参加者との意見交換を通じて、農村医学という言葉を「地域を巻き込み、考え続けるためのキーワード」として掲げ続ける意義や、「地域づくり」に医療者が住民とともに取り組む姿勢を再確認する、貴重な機会となりました。

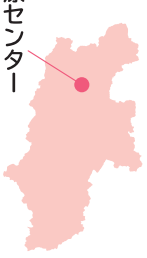
▼シンポジウムの様子



02

未来の看護師への第一歩！
高校生一日看護体験

南長野医療センター篠ノ井総合病院



7月28日・29日の2日間高校生一日看護体験を開催しました。

近隣の高校10校より33人の生徒さんが参加しました。

体験内容はまずは看護師が着用しているスクラブを着用し看護体験のはじまりです。

全体で看護師についての紹介や、手術室看護の働いている様子を紹介した後、グループに分かれて、救急蘇生体験として心臓マッサージ・AEDの体験。血圧測定・酸素飽和度の測定・人形を使っての聴診体験。車いす・ストレッチャーの操作体験をしました。その後実際に病棟に行き、患者さんと話したり・点滴の様子を見たり、清潔ケアを体験しました。すべてが初めてのことばかりでしたが、体験はじめは緊張していた高校生たちが、病棟から戻ってきたときには笑顔で「普段見ることのない場所の見学・体験ができて本当に楽しかった」「今日一日で看護師になりたいという思いが強くなりました」と言ってもらうことができました。今回の体験で看護師になりたい高校生が一人でも多くなったら良いなと思いました。



▲未来の看護師への第一歩。高校生が血圧測定に挑戦しました

2026.Oct.
Vol.109
厚生連ながの

長寿県長野で
第一線の地域医療を
私たちと実践してみませんか。



RECRUIT 01 医師募集

私たちと一緒に、地域医療を実践しませんか。

長野県は低医療費・長寿で有名です。本会は県下に13病院を有し、救命救急センターや周産期母子医療センター、がん診療連携拠点病院などさまざまな指定を受け、保健・医療・福祉活動を包括的に展開し、その一翼を担っています。信州の自然豊かな環境のなかで、四季折々の変化を存分に感じながら、一緒に地域医療を実践しませんか。

RECRUIT 02 看護師募集

夢が実現できる看護職のキャリア形成を支援します!!

- 新人看護職の卒後研修が充実しています
- 再就職支援をさまざまな形で行なっています
- 院内保育所や育児介護支援制度などがあります
- 認定看護師など資格取得を支援します

RECRUIT 03 薬剤師・医療技術職 随時募集中

お問い合わせは下記または各病院まで

長野県厚生農業協同組合連合会 人事部 人材育成課
〒380-0826 長野県長野市南長野北石堂町1177番地3（JA長野県ビル10階）
026-236-2305 saiyo@kou.nn-ja.or.jp 026-236-2307



編集後記

暑かった夏もあっという間に終わりを迎え、秋の訪れを感じている今日この頃でございます。スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、さまざまな「秋」があるなかで、皆さまはどのような「秋」を過ごされておりますでしょうか。

体調には十分ご注意いただき、皆さまそれぞれの「秋」を楽しくお過ごしください。（S・I）

「厚生連ながの」の感想をお聞かせください。

JA長野厚生連 本所「厚生連ながの」係
〒380-0826 長野県長野市南長野北石堂町1177番地3（JA長野県ビル）
FAX:026-236-2307 E-mail:info.honsyo@kou.nn-ja.or.jp

JA長野厚生連facebookのご案内
当会の活動や情報など、随時情報発信しています。ぜひ、ご覧ください。

●佐久総合病院 ☎0267-82-3131
佐久医療センター ☎0267-62-8181
小海分院 ☎0267-92-2077
●浅間南麓こもろ医療センター ☎0267-22-1070
●北アルプス医療センター
あづみ病院 ☎0261-62-3166
●長野松代総合病院 ☎026-278-2031
附属若穂病院 ☎026-282-7111
●北信総合病院 ☎0269-22-2151
●鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
鹿教湯病院 ☎0268-44-2111
●南長野医療センター
篠ノ井総合病院 ☎026-292-2261
新町病院 ☎026-262-3111
●富士見高原医療福祉センター
富士見高原病院 ☎0266-62-3030
●下伊那厚生病院 ☎0265-35-7511
●長野PET・画像診断センター ☎026-269-0550
●健康管理センター ☎0267-82-2677
●佐久総合病院看護専門学校 ☎0267-82-2474
●JA長野厚生連 本所 ☎026-236-2305
https://nagano-kouseiren.jp

VEGETABLE OIL INK

令和8年10月31日発行
発行：長野県厚生農業協同組合連合会
〒380-0826 長野市大字南長野北石堂町1177番地3（JA長野県ビル）
TEL:026(236)2305(代)
印刷：PO印刷